

前回会議での意見と対応

【資料について】

分類	出された意見	意見に対する対応
住宅事情等の状況について	住問題を考えていく際に、単に子どもを産み育てるだけでなく、子育て世帯が定着して住み続けることも大事なので、今後は世代の切れ目のない統計資料を用意いただきたい。	統計資料は高齢者等に重点を置きがちですが、今後は多様な世代の動向に着目した分析等を行っていきます。
「第3次計画」の評価と課題について	成果指標②「住み慣れて愛着があると回答した県民の割合」について、他の指標と比較し、下げ方が大きいのが、要因などわかっているのか。	当指標は、県政に関する世論調査において毎年調査していますが、推移を見るとばらつきがあり、特に要因はないものと思われます。 (参考) H28 38.8%、H29 40.8%、H30 33.1%、R1 35.5%、R2 36.6%
	成果指標に関して、必ずしも施策を直接評価した指標となっていないところもあるようだが、どうしてか。	第4次計画では成果指標を見直し、施策の効果等が反映される指標に改善したうえで、適切な目標設定を行います。
	バリアフリー化率の成果指標をみると、5年間で0.5%しか向上していないが、令和7年までの目標は75%となっており、第4次計画も同じ目標を掲げるとなると、相当な施策の強化が必要になる。	
	市町村の住生活基本計画の策定が1市町村しか増加していないが、何か要因があるのか。また県として、市町村の計画策定に関してどのような支援を行っているのか。	要因として、住生活基本法において、都道府県計画は計画の策定が義務付けられている一方、市町村計画は義務付けされていないことなどが考えられます。しかし、法の目的の達成や地域の特性に応じたきめ細やかな施策を講じるためには市町村計画の策定が重要であるため、県では全市町村が参加する「千葉県すまいづくり協議会」などを通じ、策定の働きかけ等を行っているところです。今後はさらに、県と市町村の連携が図られるよう策定の必要性などを丁寧に説明するなどしていきたいと考えております。
「第4次計画」策定の方向性について	これからの計画づくりはSDGsの概念を取り入れていくべきで、千葉県がこの計画を推進することでSDGsのどの項目に貢献するのかを明確にする必要がある。	少子高齢化や省エネ化などSDGsがターゲットとする課題は本計画の課題と重なるため、本計画においてもSDGsとの対応を整理し、推進していきます。今後、新たな総合計画などを踏まえて、検討していきます。
	第4次計画のキーワードとしてあげられていない重要なものとして、「コンパクトシティ」と「ユニバーサルデザイン」があり、この2つのキーワードは、施策体系の上位に位置付けても良いかと考える。	「コンパクトシティ」は目標3・4『駅周辺や地域拠点などに生活サービス機能を集約させることによる、コンパクトな居住構造の形成』、「ユニバーサルデザイン」は目標4『「千葉県福祉のまちづくり条例」や「ユニバーサルデザイン整備指針」の基準に基づいた施設等の整備の推進』において基本的施策として位置づけます。
	アフターコロナによって、千葉県は移住・定住に関して大きなチャンスだと考えている。千葉県を挙げて移住・定住を促進するという理念を掲げるべきだ。	目標1において、「田園居住や二地域居住に対する支援」として施策の方向性を設定し、移住・定住に関する支援を充実していきます。

【計画策定全般について】

分類	出された意見	意見に対する対応
計画全体について	環境整備による「インクルーシブ」の実現も計画に入れてもよい。	「施策の効果的な展開」などで検討していきたい。
	県で良い計画を策定しても、市町村で実現できなければ意味がないので、実現に結び付く市町村のサポートのあり方を検討してほしい。	
	この10年間に県と市町村の関係が切れてしまった感じがする。第4次計画において、市町村がサポートを求めようような計画を策定していきたい。	
個別施策について	うまく住み替えできないときに総合的なマネジメントができる窓口があったほうが良い。	「施策の効果的な展開」などで検討していきたい。
	空き家の活用として、高齢者や若者のグループリビングのような使い方ができないか。	シェア居住やDIY住宅など、多様な空き家の活用を推進していきます。
	空き家の様々な利用方法を考えていきたい。	
	千葉県は地域のプロモーション、情報発信の仕方が下手である。地域の情報発信、プロモーションに係わる項目をぜひ作ってほしい。それはインターネットの活用など、DXの推進にも関わってくる。	地域のプロモーションや情報発信など、庁内関係課、市町村、関係機関等と連携して効果的な方法を検討していきます。
	県の魅力を伝えていくためには、インターネットなどDX技術の活用が求められるので、個別の政策で手段の提示までできればよい。	
	まちづくりと同時に地域のプロモーションに力を入れていく必要がある。	
	災害についてはすぐにでも対策を練る必要がある。	新たに目標2として災害に関する目標を設定し、防災・減災に関する施策を充実していきます。
	自宅に不便を感じていてもそのまま住み続けている人が多いため、リフォームに関する様々な情報を発信することが必要。	バリアフリー化に加え省エネルギー化に関するリフォームの必要性について、「ちば安心住宅リフォーム推進協議会」と連携し、情報発信していきます。
	災害危険地域には住宅建設を制限するといった対応が、次期計画でも位置づけられたら良い。	庁内関係課の取組等を確認したうえで計画での位置付けを検討していきます。
住民主体で地域をどうしていくかを考えていく時代になると思うので、もう少しニーズをどのように組み上げていくのかを踏まえる必要がある。	地域住民との協働などを含めて施策の展開等を検討していきます。	
子どもや若者など、主体的に発信できない層の意見を吸い上げながら、そういった層が地域でこうしていきたいといった意向を持ちながら、暮らしていけるようにする必要がある。	地域住民との協働などを含めて施策の展開等を検討していきます。	
新たな生活様式の中で千葉の魅力が発信できれば、人口も増え、地価も上がってくる。	「施策の効果的な展開」などで検討していきたい。	
具体的な施策の中で、例えば高齢者であればリバースモーゲージなどのいくつか手法があるので、提示していきたい。		
昭和40年代に建設され、エレベーターがついていない団地が多く、その問題をどうしていくか興味がある。		